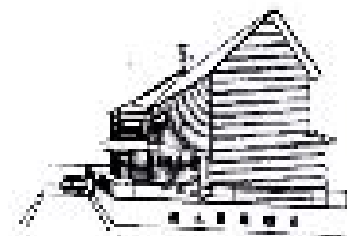


< 洗礼式から > 教会が洗礼式を行う時、教会にとって一番の喜びがあふれるのではないのでしょうか。私たちもそれらのことを思い出す素晴らしい時としたいと思います。そして、歴史をみると世界の教会にとって、また信仰者にとって、この洗礼について正しく知りたいという思いはいつもありました。16～17世紀のプロテスタント教会は、信仰問答書と呼ばれているものを好んで作りました。これらは、特にその機能においてカトリック教会に向けられたものというよりは、宗教改革を経た教会が、一体どのように受け止めてそれぞれの正しい理解に導くか、ということに目的を置いていました。これらの信仰問答書に基づいて、洗礼の準備を行うのは、受洗者にとっても、教会にとっても有益であることは今も変わらないと思います。ウェスリの時代は、信仰問答書に、時代的背景も手伝って、あまり力を注ぎませんでした。それよりは、“何か知りたいことがあった時にはどのように考えるか”という“方法”を問題にしたといえます。ウェスリも生涯、聖公会(英国国教会)の牧師でした。そしてこの聖公会には大綱(39カ条)というものがありません。第17条にある“(救われる者の)予定”を明記することには賛成しませんでした。それ以外には、特に反対はしませんでした。この27条には、洗礼についてという項目があり“洗礼は信仰告白のしるし、キリスト者とそうでない者とを識別する標識であるばかりでなく、再生もしくは新生のしるしでもある。これによって、丁度道具によって為されるように、洗礼を正しく受ける者は教会に結び合わされる。罪の赦しの約束と聖霊によって私達が神の子とされるという約束とが可視的にしるしを与えられ、封印される。信仰が堅められ、神への祈りによって恩恵が増し加えられる。幼児の洗礼は、キリストの制定に最も適合するものとして、教会において必ず保持されるべきものである。”と宣言されています。私たちの式文に、司式者が祈るべき祈りとしてこのようにあります。“永遠にいます全能の神、・・・、この人に与えられた生まれかわりの恵が空しくならないように祈ります。・・・恵と徳とが、豊かに成長するため、聖霊のバプテスマに浴させてくださるようをお願いいたします。・・・”。私たちはこのように祈ります。聖書には何と書いてあるのでしょうか。また教会はどのように教えているのか、あらん限りの理性は、何と私たちに理解させ、どんな伝統に支えられてきたか、大切に思いだしましょう。

週報

2009年 7月 19日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp